



| 特集 |

「喪失」に 直面する人への ケア

「喪失」は、誰もが人生の中で幾度となく経験するものです。

「老化や病気、障害によって心身の健康が損なわれる」

「死別によって大切な人を失う」。

在宅ケアの現場ではこのような形で喪失体験をもつ人と出会い、
それに伴って生ずる悲嘆や葛藤に対するケアが求められることになります。

「喪失に対するさまざまなケアこそが、在宅ケアである」。

そう言っても過言ではないのかもしれませんが。

本特集では、喪失とそれに対するケア(特にグリーフケア)という視点から、
その意義と必要性を確認していきます。

企画協力 ● 坂口幸弘(関西学院大学人間福祉学部人間科学科教授)